

5分ずつ
学ぼう

新 任 者 向 け

認 定 調 査 員 研 修



特記事項はなぜ書くの？

中編

この動画で確認しよう



2 特記事項記載のポイント



特記事項の記入目的

…大きく分けて2つあります。

① 選択肢が正確であるか確認するため

選択肢を、テキストの定義に従って
選択します。

+

② 介護の手間を審査会に伝えるため

⇒この動画では、介護の手間が伝わる
特記事項記載のポイントを確認します。

2 特記事項記載のポイント

(1) 選択の根拠、追加で必要な内容

調査をする中で、定義にうまく当てはまらず
迷う場合や、その人特有の事情がある場合には
どうしたらよいでしょうか。



そんなときは・・・

特記事項を活用しましょう

○選択肢を選んだ根拠

(頻回な方法・不適切状態など)

○テキスト定義外の手間・困っている事
を簡潔に記入しましょう



2 特記事項記載のポイント



【選択の根拠：より頻回な方法】

介助の方法が2パターン以上ある場合
⇒ 「最も頻回に見られる方法」で選択

一定期間内の状況が変動する場合
… より頻回に見られる状況や
日頃の状況で選択

▶ さらに状態が複数パターン見られる場合
⇒ その状況から選択し、特記に記載

2 特記事項記載のポイント

【選択の根拠：より頻回な方法】

☆ 記載例

2群の11「ズボンの着脱」（介助の方法）

「体調の良い日は、一連の行為を自立で行う。
体調の悪い日は、立ち上ったりかがんだり
することが難しいため、介助者がズボンを
構えて引き上げる。協力動作はある。

（→パターンによる介助方法の説明）

ここ1週間は、体調の優れない日が2日ほど
であったため（→どちらが頻回であるか説明）

「1. 介助助されていない」を選択する。」



2 特記事項記載のポイント



【選択の根拠：不適切な介助状態】

現在の状況である「介助されていない状態」や「実際に行われている介助」が、対象者にとって不適切な場合

⇒調査員が

「適切と考える介助の方法」を選択

■想定される状況...

- ・ 介護者不在や介護抵抗などのため、適切な介助が提供されていない
- ・ 介護者による介助が、本人の自立を阻害している など

2 特記事項記載のポイント

【選択の根拠：不適切な状況】

☆ 記載例

5群の1「薬の内服」（介助の方法）



「独居のため、介助は行われていない。

（→現在の介助方法の説明）

調査時、本人に確認すると「毎回自分で服薬している」と話す、半分ほど残薬があり、
不適切な状況と判断する。

（→不適切と判断する状況を説明）

毎回薬を用意する介助があれば、服薬動作
自体は可能であり、必要な介助として、
2.一部介助を選択する。」

（→必要と考える介助を説明）